

■トラック3 お顔にミルクシャワー

「お顔にミルクシャワー」ですね。
かしこまりました。

こちらは通常メニューの「お口でじか飲み」とは異なり、ミルクを全てご主人様のお顔にぶっかけます。

ですので、飲んでいただくことは難しいですが、問題ありませんか？

// あなたは了承する

かしこまりました。
では、さっそく準備を行いましょう。

まずはご主人様...。
私の足元に膝をついて座ってください。

// あなたは、ゆりの足元に座る

...はい、ありがとうございます。
では、私の方も準備しますね...。

// ゆりはスカートをめくって、未勃起のペニスを見せつける

ふふっ...。
オチンポが見られて、そんなに嬉しいですか？
まるで餌を目の前にした犬みたいに、目をキラキラさせて...。

でもこのオチンポ、いつもとは少し違うんですよ。

ほら、もっと顔を近づけてみてください。

// あなたはゆりのオチンポに顔を近づける。

匂い、しますよね。
汗と精液とがまざった、ご主人様の大好きなオチンポ臭...。
これ、いつもより強いと思いませんか...？
まだ皮も剥いてないのに、スカートから出した途端、この空間にオチンポの匂いが充満するくらい、強烈に臭ってますよね...。

くすっ...。
実はこれ、昨日から洗ってないんです。
お風呂は入りましたが、オチンポには触ってないんです。

昨日もお仕事でたくさんミルクを出しましたし、汗もいっぱいかきました。
だからこの皮を剥くと...。

// ゆりはペニスを皮をゆっくり剥く

ん...ん...。
う...わあ...。
自分の匂いなのに、発情してしまいそうくらい、ものすごく濃厚なミルク臭...。
はあ...たった一日洗わないだけで、こんなに濃い匂いになるんですよ...。

ふふっ...。
ご主人様、すっかり私のオチンポに魅了されちゃったみたいですね...。
でも、そうなって当然です...。
ふたなりのミルク臭には、嗅いだ女の子を虜にする力がありますから...。

// あなたはゆりのオチンポに鼻をこすりつけるようにして匂いを嗅ぐ

あっ...ん...ご主人様っ...。
鼻...オチンポに当たって、くすぐったい、です...。
んっ...ん...は一...は一...。

くすっ...。
こんなにクサイオチンポも好きなんですね...。
むしろ、こっちの方が嬉しいんですか...？
いつも以上に食いつきがいいですよ...。
変態。

あーあー...そんなにうっとりして...。
もうすっかりオチンポにメロメロですね...。

じゃあ...まだ勃起はしてないですけど、そのまま”ぱっくん”しちゃってください...。

// あなたはゆりのペニスの先端を咥える

あっ...ん...。
ご主人様のお口の中、すごく熱いです...んっ...は一...。
そのままモグモグして、オチンポ勃たせてください...。

// あなたは甘噛みする

んっ...ん、んっ...はあ、あ、はあっ...。
ふふっ...私のオチンポ、美味しいですか...？
まだ射精してないですけど、もうミルクの味がしますよね...？
昨日出したミルクが、オチンポにこびりついて残ってるんです。
それ、全部舐めてきれいにしてください...。

あ...んっ...は一...は一...。
んっ...あ、あっ...カリ首、そこっ...多分、一番ミルクのカスが残ってるところです...。
もっと舐めて...味わってください...んっ...。

はっ...はあ...ん、んっ...。

ふふっ...。

ご主人様のお口の中で、勃起してきました…。
どんどん膨らんで…あっ…ん…もう、お口に収まりきらないですね…。

// あなたは、勃起してきたペニスを、根本までくわえ込む

あっ…んんうっ…♡

あ、はあっ…ご主人様っ…そんな、根本まで…ん、んっ…。
んっ、あ、あっ…。
喉の奥まで、オチンポが入って…んっ…はあっ…気持ちいいです、ご主人様っ…。

はー…はー…。
そう、でしたね…。
ご主人様は、息ができなくなるくらい深くまで、オチンポを咥えるのが好きでしたね。

では、このまま…。
オチンポを喉の奥まで突っ込んだまま、腰、動かしちゃってもいいですか…？
きっと、すごく苦しいと思いますけど…。
でも、ご主人様は苦しいのが気持ちいいんですよ…？
…いきますよ。

// ゆりは小さめの動きでピストンする

んっ…んっ、ん、んっ…。
あっ、はあっ…ご主人様の喉に、オチンポがこすれて、んっ…気持ちいい、ですっ…。
あ、ああっ…吸い付いて、くるっ…んっ…。
それ、好きです…んっ…あっ、んっ、ん…。
はあっ…あっ、んっ…んっ…。

こんなに深くまでオチンポ入れちゃってますけど、ちゃんと息、出来てますか…？
んっ…はあ…ん…あっ…。
ん…あんまり出来てなさそうですね。
苦しい、ですか…？
じゃあどうして、そんなに幸せそうな顔をしてるんですか…？
オチンポで窒息するの、好きなんですか…？
変態、ですね…。

んっ…ん、あっ、んっ…これ…亀頭が…喉の壁にこすれて…んっ…気持ちいいっ…。
もっと、してもいいですか…？
あ…これじゃ返事出来ませんね…。
でも、苦しいのが好きなら、喉をオナホにされるのも、嬉しいですよ…。

// ゆりは動きを早くする

ん、んっ、んっ、んっ…はあ…んっ、んっ、あっ、んっ…。
はあ、はあ…ああ、これ、敏感なところがいっぱいこすれて、んっ…好き、ですっ…。
んっ、あっ、んっ…はっ、はー…はー…。

ああ...やっぱりこの光景を見ると、すごく興奮します...。
中学生みたいな体の私が、大人のご主人様のお口に、太くて長いオチンポを突っ込んでご奉仕させてるなんて...。
あっ...はあっ...すごく、いけないことをしているみたいで、ドキドキしますっ...。

あっ、あっ、んっ、んんっ...は一、は一...。
苦しいはずなのに、そんなに幸せそうな顔されて...私、その顔に弱いんですっ...。
私のオチンポで気持ちよくなってるご主人様を見てると、ゾクゾクして...。
ん、はあ...。

// 動きを止める

もっといじめなくなっちゃいます...。

頭の後ろ、掴んじゃいますね...。

// ゆりはあなたの後頭部を押さえる
// そのまま腰振り再開

こうすると、私のご主人様を支配してるって感じが強くなって...はあ...すごく興奮するんです...。
まるでご主人様を道具として使っているような感覚がして...。
んっ、ん...はあ、はあ...。
あ、はあ...オチンポがゾクゾクします...。

くすっ...。
ご主人様も嬉しいみたいですね...。
女の子のオチンポに支配されて、興奮してますか...？
頭を押さえつけられて、無理やり喉の奥までオチンポ挿れられて...？
本当にド変態ですね。

でもさすがに、このままだと本当に窒息死してしまうので...んっ...。

// 動きを止める

オチンポいったん抜きますね。

// ゆりはペニスを引き抜く

ん...あ、はあ...はあ...。
うわあ...オチンポ、ご主人様の唾液でどろどろです...。

ん...？
お口からオチンポ抜かれてさみしいんですか？
そんなに物欲しそうな顔で見つめて...本当に好きなんですね。

じゃあ今度は、もっと大きな動きで、ご主人様の喉を犯しましょうか。
はい...先っぽ、もう一度咥えてください。

// あなたはゆりの亀頭を咥える

ん...はあ...。
それでは、動きます。
ゆっくり、喉の奥までオチンポを挿入して...

// ゆっくり喉奥に挿入

ん、あ...はあ...

今度は、ゆっくり引き抜いていきます...

// ゆっくり亀頭が抜けない程度に引き抜く

ん...んっ...はあ...

くすっ...。
ゆっくり喉を犯されるのも、気持ちいいですか...？
これを連続で、行いますね...

// ゆりはゆっくり、大きな動きでのピストンを始める

んっ、く...はあ...

あ...んっ...は一...

// 以降も動きは続く

ふふっ...なんだかさっきよりも、オチンポで支配してるって感じがして、すごく興奮しますっ...。
特にこうやって、オチンポを喉の奥まで挿れていくのが...あっ、はあっ...。
オチンポ、ゾクゾクしますっ...んっ...は一...は一...

ご主人様...。
もっと吸い付いてください...

// あなたは、咥えさせられたペニスに吸い付く

んっ...ん、はあっ...。
そ、そうです...いいですよ、ご主人様っ...。
あっ、ああ...口の中と喉が狭くなって、オチンポの気持ちいいところに、たくさんこすれますっ...
んっ、んう...は一...

んっ、く、はあっ...。
とろとろの我慢汁、いっぱい出ちゃってます...。
ご主人様に、吸い出されて...んっ...あ...今また、どぶうって...んっ...

これがあふれてきたってことは...わかりますよね...？

そうです...射精の準備が進んでるんです...

ほら...私の金玉、膨らんできてますよね...

身長に見合わない、大きくて重たい金玉の中で、ご主人様のお顔にぶっかけるためのミルクが製造されるんです。

ん...はあ...さっきから、少し出そうになってるのを我慢してるんです...

せっかくのザーメンシャワーなので、濃いほうがいいのかと思って...んっ...

でも、もうそろそろ限界、です...

じゃあ...フェラは終わりにしましょうか。

// ゆりはあなたの口からペニスを引き抜く

ん...は一...は一...

ここからは、私が自分でしごきますので...ご主人様は、ぶっかけられる心の準備をお願いします...

もう、一気に射精までいきますね...

では、始めますっ...

// ゆりは両手で自分のペニスを激しくシコシコする

んっ、んっ、んっ、あっ...はっ、んっ、んっ、んっ...♡

両手でオチンポを握って...激しく、上下につ...んっ、はあっ...

焦らしとか、我慢とかは考えてない、射精するための動き、ですっ...

あっ、あっ、あっ、んっ、あっ...

んっ...はあっ...

ご主人様の唾液で、オチンポがぬるぬるになってますっ...

これ、気持ちいいっ...んっ、あっ、んんっ...♡

はっ、はっ、んっ、ぐう...んっ、は一...

あっ、あー...出るっ...出ますよっ...ご主人様っ...

私のオチンポから、どろどろのミルクがびゅーって出る瞬間、ちゃんと、見ててくださいねっ...

んっ、んっ、んっ、んっ...あっ、あああ...出るっ...出るっ、んっ...

はっ、んっ...イクっ...イクうっ...ぐっ...んうう~ツツ...！！

// ゆりは射精する

んっ...んぐっ...ぐ、おおおっ...♡

はっ、あっ...はああ...いっぱい、出てますっ...んっ...ふー...♡

おっ...んっ、おおお...どろどろで濃いのが、びゅっ、びゅーって...んっ...おおっ...♡

あああ...射精気持ちいい...んっ、は一...

あっ...ぐっ...ん、おおお...好き...これ好きっ...はああ...

ふっ...んっ...はあっ...ご主人様のお顔...私のミルクでべとべとっ...。
はー...エロいですっ...その顔、ゾクゾクしますっ...。
んっ...ぐっ...はー...はー...んっ...はー...はー...。

ふー...ふー...ふー...。
はああ...。

たくさん、出ましたよ...。
ふふっ...。
ミルクシャワーはいかがでしたか...？
生温かくて、どろどろのミルクを顔中に浴びられて幸せですか...？

あー...またそんなにいやらしい顔をして...。
興奮するじゃないですか...。

んー...。

ご主人様...お口、開けてください...。

// あなたは口を開ける

すみません、ご主人様。
少しの間、我慢してください。

// ゆりはあなたの口に勃起したままのペニスを強引にねじ込む

んぐうっ...♡
んっ、はー...またご主人様の喉奥に入れちゃいました...。
すみません...ご主人様の顔がエッチすぎて...我慢できなくなっちゃいました...。
すぐに済みますから...このままもう1回、出させてくださいっ...。

// ゆりは激しく、大きめに腰を動かす

んっ...んっ...ぐっ...はあっ...。
あっ...おっ...あああ...気持ちいいっ...。
オチンポ、イッたばかりですから、すごく敏感になっててっ...んっ...！
さっきよりも、感じやすく...あっ、んっ、んうっ...はー...。

あああ...これ...またすぐに出ちゃいそうですっ...。
んっ、んっ...はっ、あっ、あっ...んぐうっ...。
ご主人様のお口に、無理やりオチンポねじ込んで犯すの...すごく興奮しますっ...。
その苦しそうな表情っ...。
でも、幸せなんですよねっ...ふふっ...変態ご主人様っ...。

あっ...あ、あっ...んっ...はああ...また出ますっ...。
ご主人様っ...私のミルク、もう一度受け取ってくださいっ...。

んっ、んっ、んっ、はあっ...♡

あっ...出るっ...また出るっ...オチンポいくっ...。
んっ...あっ...いくっ...いくっ、いくっ...んっ、んうラツツ...♡

// ゆりはあなたの口の中で射精する

んぐうっ...あっ、んっ、おおおっ...♡
んっ、はああっ...気持ち、いいっ...んっ、ぐ...んおおっ...♡
あっ...ぶっかけ...んっ...♡

// ゆりは口からペニスを引き抜く

あうっ...んぐっ、はあっ...♡
あったかくてドロドロのミルクっ...もっとお顔にかけてあげますね...。
びゅっ...びゅっ...びゅっ...んっ...あっ...は一...♡
気持ちいい、ですっ...ご主人様っ...あっ、あああ...♡

んっ...んっ...は一...ふう...んっ...は一...は一...。

ふー...ふー...んっ...ふー...ふー...。
はああ...。
は一...は一...。

え、へへ...喉の奥にも、ちょっと出しちゃいました...。
でも、またお顔にもたくさんぶっかけましたよ...。
はあ...はあ...。

ふふっ...すごい匂いですね...。
これ、多分洗ってもしばらく落ちないと思います...。
ご主人様はこれからしばらく、私のミルク臭を身にまとって生活するんです...。
ふとした時にエッチな匂いがして、私のことを思い出すんです。

それでまた、私のミルクが欲しくなったら、いつでも来てください。
ご主人様へのマーキングミルク、たくさん溜めて待ってますので...。

■トラック3 了